



1. 自己紹介・事務所紹介

「うがみんしょうらん!」これは、奄美の方言で「こんにちは」の意味です。ちなみに奄美では「方言」のことを「島口(しまぐち)」と言います。

私は、東京での74期司法修習終了後、2022年4月に弁護士登録と同時に二弁に入会し、法テラスにスタッフ弁護士として就職しました。同年5月から養成スタ弁として紀尾井町法律事務所です1年間お世話になり、2023年5月に法テラス奄美法律事務所に着任しました。法テラス奄美法律事務所は、弁護士1名、事務員2名の3名体制です。

2. 奄美大島について

奄美大島は、九州鹿児島島の南方約380キロ、沖縄本島の北方約300キロに位置しています。面積は、島としては沖縄本島、佐渡島に次ぐ大きさです。

奄美大島は、第二次世界大戦後米国の占領下にありましたが、1953年12月に本土復帰しました。2023年は本土復帰70周年の年であったため、様々な行事・イベントが開催されました。また、2021年には、沖縄島北部などととも世界自然遺産に登録されました。

奄美大島の人口は約5万8千人です。島内常駐弁護士は5人です。島内にある鹿児島島地方裁判所名瀬支部の管轄地域は、奄美大島をはじめとした奄美群島(喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島)です。奄美群島全体の人口は約10万人です。奄美大島でも群島全体でも人口は減少傾向にあります(1985年の群島人口は約15万人でした。)

3. 業務について

法律相談の申込みは、途切れることなく常にあります。執筆時点(2024年3月)では月に20件ほどの法律相談を実施しています。相談内容は、債務整理、離婚、

相続などが多く、東京での相談内容と大きな違いは感じられません。相違点の1つとして、不動産の相続登記がなされていないケースが多いということが挙げられます。そのため、相続土地の所有権移転登記の訴訟の相手方が80名を超えるといった案件もありました。

また、相続財産清算人、不在者財産管理人、破産管財人など裁判所からの案件も経常的にあります。東京では、弁護士経験が浅いため裁判所から声がかかることはありませんでしたが、こうした案件受任も弁護士数の少ない司法過疎地ならではの特徴の1つかと思えます。

4. 二弁とのつながりについて

二弁の公設事務所運営支援等委員会の主催する「公設事務所所長等弁護士意見交換会」が2023年11月に開催され、Zoomで参加させていただきました。二弁在籍中にお世話になった先生方の顔を、画面越しですが久しぶりに拝見することができ、うれしく思いました。コロナ禍がもたらした数少ないプラス財産としてのオンライン会議の便利さを感じました。

養成事務所である紀尾井町法律事務所の先生方には、今でもいろいろと相談に乗っていただいています。

また、鹿児島市に本社のある南日本新聞では、現在同紙の客員論説委員の1人として二弁の先生が執筆をしておられ、二弁を思い出しながらなつかしく論説を拝読しています。

少し脱線しますが、当事務所では新聞2紙を定期購読していますが、重要な活用方法の1つが、毎朝社会面の逮捕記事を確認することです。「司法過疎地あるある」だと聞きましたが、当地でも刑事事件の当番弁護は、休日も含め一年中突然の出動依頼があります。待機日指定がないためです(国選も平日は待機日指定がなく、突然の出動依頼があります。)。そのため毎朝、新たな逮捕者がいないかを新聞記事で確認しています。

ちなみに出勤先の奄美警察署の接見室には、接見人心得の1つとして「外国語、島口、隠語、暗語等は使用しないこと」との記載があり、「島口」も使用禁止です。

5. 島暮らしについて

奄美大島は、東京よりも気候が温暖なため、寒さが苦手な私には過ごしやすい土地です。

島の暮らしで驚いた点としては、台風に限らず天候不順で海が荒れると、船が欠航となり、食品等の生活用品がすぐに欠乏してしまうことです。牛乳などの乳製品やパン類は、最も早く棚から消えてしまいます。2023年夏の台風6号は、迷走台風として影響が長引き、船の欠航が10日ほど続いたため、スーパーの棚の多くが長期間にわたり空のままとなり、兵糧攻めに遭った籠城戦の兵士のような体験をしました。

大きなイベントとしては、「奄美まつり」が毎年8月にあります。その祭りの行事の1つとして舟こぎ競争が開催されます。私も参加しました。検察庁、拘置支所が中心となり、そこに法務局、保護観察所、裁判所、警察署、弁護士事務所が加わった合同チームが結成され、そのチームに参加しました。刑事事件での立場からすると、呉越同舟のような印象です。1艘に左右3人ずつ計6人のこぎ手と1人のかじ取りが乗船します。男性2チーム、女性1チームがこの合同チームから参加しました。合同チームでは、おそろいのTシャツを作り、また参加メンバーによる集まりも、決起大会、舟こぎ練習、本番、打ち上げと何度もあり、参加者間で懇親を深めることができました。大会全体では124チームがエントリーしましたが、台風による日程延期の影響もあり、やむなく欠席したチームもいくつかありました。

奄美大島は、世界自然遺産に登録されるだけあり、美しい自然が身近にたくさんあります。少し車を走らせ

れば、プライベートビーチのような美しい砂浜があちこちにあります。山に入れば亜熱帯の美しい森があり、奄美大島と徳之島の固有種であるアマミノクロウサギも生息しています。ほかにも希少野生動植物がたくさん生息しています。ただし、山の中には猛毒を持ったハブもいますので要注意です。自治体ではハブによる被害予防策として、ハブの買取りを実施しており、地元新聞には、先月は何匹買い取ったという記事が載ります。

奄美観光のハイシーズンは夏です。いろいろなマリンスポーツを楽しむことができます。暑いですが、35度を超える猛暑日は東京よりも少ないため、東京より過ごしやすいかもかもしれません。冬は、東京ほど寒くはありませんが、天気は曇りがちで日照時間が少なくなります。冬場の観光資源として、最近はホエールウォッチングが人気ようです。

6. 最後に

私は、執筆時点で弁護士登録後2年弱の業務経験しかありませんので、まだまだわからないことが多く、日々悪戦苦闘しています。弁護士1人の事務所であり、仕事の上での愚痴を聞いてもらえる相手もないため、ストレスのはけ口に困ることもあります。他方で、司法過疎地であるが故に、自分の活動を通じて、相談者や依頼者を中心に島の人々のお役に立てているという充実感を得ることができます。司法過疎地での弁護士業務に興味をお持ちの先生方には、是非一度体験されることをお勧めします。

今後とも、気力・体力の続く限り、島の人々の総幸福量が増えるよう微力を尽くす所存です。二弁の先生方には引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りたく存じます。最後まで拙文をお読みくださり、ありがたまりようた（「ありがとうございました」の島口です。）!

1 崎原ビーチ 2 油井岳展望台から望む大島海峡と加計呂麻島 3 2023年8月の舟こぎ競争

